

取り組み項目の整理 基本的な考え方

「金属労協がその項目に取り組む理由が明確になるような評価軸」と「論議・検討の進め方」「結果の取り扱い」の枠組みを以下のとおり整理し、今後の取り回しの基本的なルールとしていく。

1. 「具体的な取り組み項目の整理」：金属労協として取り組むべき範囲の明確化

1) 政策の内容に基づく整理

「ものづくり・金属の産業政策」 および 「金属労協の各種政策を実現するための制度整備」「民間の立場で取り組むべき政策」 金属労協コアの政策として取り組む。
 時事問題・その他の政策 基本的には連合として取り組むべき（委ねる）領域と整理。但し、国民的な時事問題については議論の上、金属労協としての取り扱いを決定する。

2) 組織の役割分担上の整理

連合と重複する項目は基本的に要求項目からは削除（金属労協発案のものは除く） 産別個別色の強い課題は金属労協の要求項目としては削除（別表扱いで添付）

3) 上記1)・2)の検討範囲に入らない項目については、「取り組み項目」から除外

2. 「政策論議の仕方と結果の取り扱いの整理」：連合との役割分担および連合への対応の整理

- ・金属労協の枠組みの活用という観点で、政策委員会において、定常的に構成産別の連合への対応についての情報交換を実施。対象は特に絞らず、『政策全般』とする。
- ・情報交換および論議の結果については都度、連合における取り扱いを整理し、各産別はその整理を踏まえて対応する。その際、政策の領域により金属労協としてどこまでこだわりを持つかについて判断する。

政策の領域		取り組みの位置づけ	金属労協内議論のスタンス	金属労協の要求項目としての取り扱い	連合への対応	備考
金属労協 コア政策	ものづくり・金属産業政策 ・産業の維持・発展につながる政策 ・産業に大きな影響を及ぼす政策 など	・金属労協のコア政策として 取り組む	・コアの政策として全産別合 意する。	・議論の結果、連合と見解が異なっても 要求項目とする。 ・金属労協の主張が通って連合の要求項 目となった場合も要求項目として残す。	・議論の過程で各産別同一の見解を 示す。 ・全産別合意できない部分は各産別 がそれぞれの立場で対応する こととし、金属労協としては対外的 に発言しない。	
	民間の立場で取り組むべき政策 ・日本全体の生産性を高めるための政策 ・民間固有の政策					
	金属労協の各種政策実現のための制度整備 ・賃金・労働政策など機関確認された政策 など					
国民的な議論となる時事問題への取り組み ・上記の各領域に含まれない政策で国民生活全般 に関わり、労働組合として議論すべき政策		・基本的には連合として取り 組むべき領域と整理 ・ただし、左記のような視点 で金属労協として取り組む べき場合には論議する	・議論提起に応じ、政策委員 会で情報交換・意見調整す る。	・国民生活全般に関わる項目は連合の役 割と整理し、金属労協として基本的 には要求項目とはしない。	・基本的には各産別がそれぞれの立 場に対応する。 ・ただし、全産別合意に至った点 がある場合は、議論の過程で同一見 解を示す。	・要求項目とはしないが、 内部的に合意できた部 分については金属労協 のスタンスとして整 理・維持していく。
その他上記のいずれにも含まれない項目		・基本的に金属労協としては 取り組まない	・政策委員会で情報交換する。	・金属労協の要求項目とはしない。	・各産別がそれぞれの立場で対応す る	

各産業個別の政策課題については 基本的に各産別の取り組みに委ね、金属労協全体の要求項目とはしないが、各産別の相互理解と金属労協の枠組みの有効活用という位置づけで、別表として整理・掲載する。
 但し、当年度が実現に向けた正念場であり、かつ当該産別の提起に基づき議論をした結果、他産別の異論がない場合は、当年度については要求項目として取り組むことも可とする。